

# 薩摩琵琶の音色にうっとり

## 我孫子市立布佐中 芸術鑑賞、卒業生が演奏



母校で薩摩琵琶の弾き語りを披露する久保田さん(左)＝我孫子市立布佐中学校

我孫子市立布佐中学校(石井美文校長、生徒250人)で、日本の伝統芸能に親しむ特別授業「芸術鑑賞教室」が開かれた。同校卒業生で国内外で活躍する琵琶奏者の久保田晶子さん(42)が、3年生約110人を前に繊細かつ勇壮な薩摩琵琶の音色を披露した。

芸術鑑賞教室は、文化的視野を広げてもらうための視養を深めながら自身に、卒業を控えた3年生を対象に毎年実施。久保田さんは3年前から同教室の講師を務め、薩摩琵琶や奏者の仕事の魅力を伝えている。

この日は、有名な「祇園精舎」「敦盛の最期」「杜子春」の3演目を弾き語り。生徒たちは弦を引っかけたり、胴をバチでたたいたりする多彩な奏法に興味津々の様子で、趣のある薩摩琵琶の調べにうっとりしながら耳を傾けていた。

杜子春では、生徒が登場人物に扮(ふん)し、せりふに挑戦する場面も。久保田さんは「薩摩琵琶は、薩摩藩の島津家が武士道の一環として家臣たちに習わせていた伝統ある楽器。和楽器に触れる機会が少なくなっているので、興味を持ってもらえたらうれしい」と

話していた。

3年の斉藤萌々子さん(15)は「三味線みたいな楽器かと思ったら、今までに聴いたことのない音色で鳥

肌が立った」と興奮気味。榎本彩希さん(15)は「和楽器は琴と三味線しかやったことがない。薩摩琵琶を弾いてみたい」と話した。